

授業改善推進プラン<理科>

西東京市立ひばりが丘中学校

1 指導目標

自然に対する興味・関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力や態度を育てる。また、自然の事物・現象についての理解を深めさせ、科学的な見方や考え方を養う。

2 平成26年度 1学期における考察と課題

学年	考察	課題
1 学年	授業規律の確立と、実験・観察における基本技術を習得することで、協力しながら学習に取り組み始めている。	科学的な視点で思考し、自ら考える力を伸ばすことが課題である。
2 学年	都の学力調査の結果、本校生徒は4観点すべて都の平均を超えている。基礎学力は定着しているが、読み取る力や解決する力に課題がある。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論し、自ら解決する力をつけさせることが課題である。
3 学年	実験・観察の時間を多く設け、実験結果を予想したり、考察する力が身についてきた。	授業で学習したことを身近な現象と結びつけて考える力をつけさせることが課題である。
全学年	観察・実験に加え、視聴覚機器を活用して学習意欲を高め、生徒自ら学力の向上に努めて取り組むことができていく。	身に付けた知識や技能を活用し、発展的な内容に高めさせることが課題である。

3 平成26年度 2学期以降へ向けての改善のポイント

学年	改善のポイント
1 学年	実験・観察の時間だけでなく、教室での授業でも、相談活動を多く取り入れ、教え合いの中から、自ら考える、科学的な思考力を伸ばしていく。
2 学年	先の見通しを持って観察実験に取り組みせ、グループでの話し合い活動を通して考えを深化させ、考察したことを自分の言葉で表現する力を伸ばすよう指導していく。
3 学年	実験・観察の予想考察だけではなく、自ら科学的に調べる能力や態度を育ませるためにも、探求活動や、グループごとの調べ物学習を取り入れていく。
全学年	チーム・ティーチングの特性をさらに生かし、個に応じたきめ細やかな指導を続け、生徒が主体的に考え、判断し、自らの言葉で表現する力を伸ばすよう指導していく。

4 評価の工夫

観点	観点の項目	評価内容
自然事象への関心・意欲・態度	身近な事物・現象に関心を持ち、意欲的に学習することができる。	発言、ノート、ワーク、レポートなどの記録、自己評価
科学的な思考・判断・表現	身近な事物・現象について、考えたことを自分の言葉で表現できる。	観察、実験のレポートの記録、ペーパーテスト
観察実験の技能	観察、実験の基礎操作を身につけ、結果を正確にまとめることができる。	操作や器具の扱いなどの行動観察レポートなどの記録、パフォーマンステスト、ペーパーテスト
自然事象についての知識・理解	学習した内容を理解し、基礎知識を身につけることができる。	ノートやワーク類の記録、ペーパーテスト